

## 社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク 2013 年度 事業報告書

### <実施期間>

2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

### <2013 年度の方針と報告>

1. 社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（以下、本ネットワーク）として、民間非営利セクターをはじめとして、あらゆる組織の SR(社会的責任)向上に向け、NPO/NGO の視点から学習会、啓発事業、情報発信を実施し、SR の普及に努める。

年間で合計 3 回の会合を開催し、約 200 名の参加者を得た。特に ISO26000 発行 3 周年記念セミナーと開催した 2013 年 11 月の会合では初の試みとして「SR 川柳大賞」を企画し、400 を超える作品の応募を得るとともに、一般向けソーシャル&エコ・マガジンである「月刊ソトコト」からの協賛も得て、社会への発信の観点からも有意義な取り組みを行うことができた。また、ウェブサイト中心で行った情報発信では、幹事団体によるリレーコラム連載を開始するなど、定期的な発信の強化に努めた。これらを試行した経験を次年度以降の活動に反映していくことが望ましい。

2. SR の普及啓発活動に、より多くの NPO/NGO が参加することを促進する。特に、地域の会員団体の参加が得られるよう連携強化に取り組む。

2014 年 2 月に開催した地域円卓会議フォーラム 2014 を通じ、地域の NPO からの参加を得ることができた。会員団体の比率としては依然地域所在の団体は限られており、より地域の会員団体の意見や要望を聞きながら対応していくことが望ましい。

3. SR の普及、啓発に関すること、および「社会的責任に関する円卓会議」（以下、「SR 円卓会議」）について政策提言事業を推進する。

SR 円卓会議へ NPO/NGO の立場から継続的に参加することを通じ、現在までの行動計画のフォローアップ、報告書の作成、ワーキンググループの活動評価にかかわり、議論の場の確保に貢献した。

4. 東日本大震災後の復興に関する取り組みにおけるマルチステークホルダープロセスの実践にむけ、可能な範囲での助言・側面支援に努める。

個々の幹事団体の事業としての取り組みはあったが、NN ネットとしては実施にいたらなかった。

## <2013 年度の事業報告>

### 1. 啓発事業

#### [主旨]

日本における「SR のあるべき姿」の具体化へ向けて、引き続き ISO26000 の普及活動や SR 円卓会議での動きの報告・共有を行うとともに、特にマルチステークホルダープロセス（MSP）等の手法も活用しながら、国内における NPO/NGO の SR の取り組みを広げることにより主眼を置き、より地域に密着した SR の実践事例紹介や、自団体での取り組みを促すための発信・学習機会づくりを提供した。政策提言事業や各会員団体の事業等とも連携しつつ効果的な啓発活動につとめた。具体的に行った事項については下記をご参照いただきたい。

#### [担当幹事団体]

NPO サポートセンター、環境パートナーシップ会議（EPC）、参画プラネット

#### [実施報告]

##### (1) 本ネットワークの政策提言につながる事業の共有、情報提供

本ネットワークの政策提言につながる事業の共有と情報提供として、下記のイベントを行いました。

各イベントについては、企画した担当ごとに詳細報告を掲載しています。

##### ・SRフォーラム2013

「“四方よし”で実践、NPO/NGOの社会的責任（SR）実践事例を学び、SRに取り組もう！」

日 時：2013年5月10日（金）13：30～17：30

参加人数：61名（幹事団体を含む）

テーマ：オープニングフォーラム

「SRにとりくみ、“四方よし”！～SRにとりくむNPO・NGOの実践事例～」

分科会A：「NPOだからこそ、組織の社会責任にもしっかりととりくむ！」

～自組織のSR課題を特定してロードマップを作成しよう！」

分科会B：社会課題解決とSRの向上を他セクターと実施する

～多様なセクターのSR事例から、ヒントをもらおう！

登壇者：北澤ちさとさん（特定非営利活動法人マドレボニータ 事務局長）  
渡邊清孝さん（特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド 事務局長）  
山元圭太さん（特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 日本事業統括ディレクター）  
石原達也さん（特定非営利活動法人岡山NPOセンター 理事/事業開発・地域連携責任者）  
岡田芳明さん（三菱地所株式会社 環境・CSR推進部）  
熊谷謙一さん（日本ILO協議会 編集企画委員）  
野本剛司さん（さいたま市 経済局経済部経済政策課）ほか

・ ISO26000発行3周年記念セミナー

「社会的責任（SR）普及の現在地～発行から3年を振り返る～」

日 時：2013年11月1日（金） 15：30～19：30

参加人数：41名（幹事団体含む）

テーマ：キーノートスピーチ、パネルディスカッション「SRの普及と取り組み」、  
ポスターセッション及び交流会/「SR川柳大賞」発表

登壇者：熊谷謙一さん（特定非営利活動法人日本ILO協議会 編集企画委員）

笹谷秀光さん（株式会社伊藤園 CSR推進部長）

富澤守さん（国分寺市）ほか

・ 地域円卓会議フォーラム2014～地域の課題に、対話と協働で挑む～

日 時：2014年2月20日（木） 17：45～20：00

参加人数：96名（幹事団体含む）

テーマ：社会的責任に関する円卓会議の成果や課題

地域円卓会議の実践事例の紹介&パネルディスカッション

分科会・ディスカッション、全体共有・「地域円卓会議 ひろがれ宣言」

登壇者：板持周治さん（雲南市政策企画部地域振興課）

八嶋英樹さん（特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター）

横田能洋さん（特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ）

小阪亘さん（公益財団法人みらいファンド沖縄）

**（2）SR セミナーのコンテンツ・パッケージづくり**

・ 2013年度は検討がすすまなかったため、2014年度以降に引き続き検討をしていく。

**（3）SR セミナーの開催呼びかけ**

・ 開催実施には至らなかったが、講師紹介・セミナー開催協力について仕組みを整理し、申込書、ウェブサイトの更新を行った。

- ・また、下記イベントへの協賛・協力を行った。

2013年5月14日 公開講座「世界の労働環境から日本を見つめてみよう」

主催：社労think（協賛）

2013年9月6日 「企業と人権」 枠組みセミナー

主催：一般財団法人 CSOネットワーク（協力）

#### （４）東日本大震災の復興と社会責任、マルチステークホルダープロセスを考える事業の実施

- ・2013年度は、具体的な事業の検討には至らなかった。

#### （５）その他

- ・第1回SR川柳大賞 ～あなたのウィットが社会をよくする～

一般向けに、「SR」や「社会的責任」などの認知度向上を目的に、SRをテーマとした川柳「SR川柳」を募集し、優秀作品を表彰した。

募集期間：2013年8月15日～10月10日

最終選考&発表日：2013年11月1日（SRセミナー内にて）

応募総数：406作品（170人）

各賞：大賞1作品、審査員特別賞3作品、ソトコト賞1作品

- ・NPOセクター向け、GRIレポーティングガイドラインを学ぶ勉強会

CSRの代表的なガイドラインであるGRIのサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン Version 4.0 (G4) は、NGO/NPOセクター向けにレポーティングの補足基準も含まれている。そこでNGO/NPOセクターを対象としたレポーティング・ガイドラインの補足基準を学び、NPOの社会責任（SR）のありかたを考える勉強会を開催した。

日 時：2014年3月18日（火）14：00～16：00

参加人数：13名（幹事団体含む）

テーマ：GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドラインとは

GRI G4がNGOセクター向けに作成したレポーティングの補足基準について  
日本のNPOのSR取り組みについての事例紹介

登壇者：Bastian Buckさん（GRI Director Reporting Standards）

## **2. 情報発信・広報事業**

### **[主旨]**

国際的に、また産業界や政府機関などの他セクターで SR への関心が高まる中で、NPO/NGO の意識向上を図り、行動に移すことは、NPO/NGO が社会的な信頼を得て、他セクターとの対話を促していくためには必須である。そのために、本ネットワークは SR の概念浸透、NPO/NGO 間の連携、議論のプラットフォームづくりを目的に情報を発信する。「啓発事業」や「政策提言事業」に関する情報を中心に、ウェブサイトやメーリングリストを通じた、タイムリーな発信を行う。また、より強固なネットワーク組織を目指し、会員獲得に努める。

**[担当幹事団体]** 難民を助ける会 (AAR)、日本 NPO センター

### **[実施報告]**

#### **(1) SR・ISO ハンドブックの頒布促進のための広報活動の強化**

IIHOE 主催「自治体 SR 調査報告」(6/17 開催)、CSO ネットワーク主催「企業と人権」枠組みセミナー (9/6 開催) の会場などで機会を持ち、2014 年 3 月までに 246 冊を頒布した。また、ウェブサイトや SNS など、継続してハンドブックを紹介するよう努めた。

#### **(2) 会員向け情報発信の強化**

会員メーリングリストに加えウェブサイトと SNS を効果的に活用し、イベントや幹事会の情報を発信した。ウェブサイトでは幹事会報告を毎回開催後 1 週間以内に公開し、会員および入会を検討している団体への情報共有に努めた。また、幹事団体が社会的な出来事や SR に関する様々な話題を取り上げ独自の視点で語る「NN ネットコラム」の連載を 2013 年 8 月より開始した。

#### **(3) 外部向け情報発信の強化**

イベントの集客をはかるため、広報リストを元に関係サイトへの情報掲載を行った。9 月には「月刊社労士」の本棚コーナーにてハンドブック情報を掲載し、新たにハンドブックの注文を受けるなど新規層の開拓をはかった。また、11 月 1 日に開催した ISO26000 発行 3 周年記念セミナーでの表彰式にはソーシャル&エコ・マガジン「月刊ソトコト」からの協力を得た。また、2014 年 2 月 20 日に開催した「地域円卓会議フォーラム 2014」では、企業、行政、消費者などのセクターからの参加があった。各イベントの開催概要は啓発事業報告を参照のこと。

#### **(4) 会員獲得を目的とした広報**

入会を検討している NPO/NGO に対して NN ネットの活動を可視化するため、ウェブサイトでの幹事会報告や幹事団体のコラム掲載を行った。

### 3. 政策提言事業

#### [主旨]

社会的責任に関する国際規格 ISO26000 発行および JIS 制定を受けて国内の普及、啓発、ISO26000 の3年目の定期見直しへの参加と、日本国内の動きとしての SR 円卓会議の2つに絞った形で政策提言事業を推進した。後者の議論には、本ネットワークの代表協議者を会議に派遣し、その内容を広く本ネットワーク会員をはじめとする NPO/NGO 関係者と共有する。

[担当幹事団体] CSO ネットワーク、IIHOE（人と組織と地球のための国際研究所）、難民を助ける会、日本 NPO センター

#### [実施報告]

##### (1) ISO26000 発行後の情報共有など

・ISO26000 の定期見直しに向けて専門の見地から助言を行う「ISO/SR 幹事会」の委員に、黒田かをりと堀江良彰が NN ネット代表協議者として就任した。両名は、2013年10月17日、12月25日、2014年3月4日に開催された同幹事会に参加した。これらの会議への参加を通じて、定期見直しに関して NN ネット会員から集約した意見を述べるとともに、ISO26000 の活用方法や、普及に関しても情報共有や意見交換を行った。

また、黒田は ISO26000 の発行後の組織 (Post Publication Organization) の NGO ステークホルダーグループのメンバー代理も務めた。

##### (2) 他セクターの元エキスパートなどと共同でセミナーを実施

啓発チームと連携して2013年5月10日に「SR フォーラム2013」、2013年11月1日に「ISO26000 発行3周年記念セミナー 社会的責任普及の現在地～発行から3年を振り返る」を開催した。これらのイベントには NPO/NGO 関係者だけでなく、ISO26000 の元起草委員に加え、企業、自治体からも登壇してもらうなど、他セクターからの協力も得た。

##### (3) 社会的責任に関する円卓会議の各ワーキングの行動計画に沿った NPO/NGO の取り組みの推進

SR 円卓会議に本ネットワークの代表協議者が委員として参加すると同時に、NPO/NGO ステークホル

ダー間で意見交換を行い、積極的な提案を行った。

#### ■SR 円卓総会

→2012年6月26日(火) 場所：内閣府

総会委員：太田 達男(公益財団法人公益法人協会理事長)

星野 昌子(特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター)

特別顧問/

特定非営利活動法人日本NPOセンター顧問)

堀田 力 (公益財団法人さわやか福祉財団理事長)

■SR 円卓運営委員会 (運営委員: 田尻佳史 (特定非営利活動法人 日本NPOセンター))

- ① 2013年5月23日 場所: 内閣府
- ② 2013年8月20日 場所: 内閣府
- ③ 持ち回り総会を実施 (2013年7月5日)
- ④ 協働戦略に関する内部評価を実施
- ⑤ 2013年12月16日 場所: 内閣府
- ⑥ 2014年3月6日 場所: 内閣府

~~(4) 社会的責任に関する円卓会議の行動計画のフォローアップ、協働プロジェクトの実施に向けたプロジェクトグループへの参加~~

~~各グループの責任の範囲において実施する各行動計画に沿った取り組みをフォローアップした。また、協働プロジェクトについても、引き続き、テーマごとにプロジェクトグループを結成し実施した。NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、「地域円卓会議」の推進など、「協働戦略」の実現に結び付けた。~~

■~~ともに生きる社会の形成ワーキンググループフォローアップ会合~~

- ・~~実施会合: 第5回4/18, 第6回5/29, 第7回6/6, 第8回7/26, 第9回8/22, 第10回9/14, 第11回10/15, 第12回11/20, 第13回12/18, 第14回2/13 (計10回)~~
- ・~~5月18日SRフォーラム2012分科会3A)「『多様性豊かな、誰もが排除されない社会』のために私達ができる具体的なこと—調査、比較、課題解決に向けたアクション—SR 円卓会議「ともに生きる社会の形成」WG」加来栄一委員 (日本労働組合総連合会企画局長) 吉田拓野委員 (内閣府政策統括官付参事官付参事官補佐)、矢野洋子委員 (東京消費者団体連絡センター)、横田能洋委員 (認定特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ) が登壇。~~
- ・~~「『ともに生きる社会』のための暮らしやすさの10の指標」リーフレットを作成: 6月26日総会において発表。~~
- ※~~具体的な指数の絞り込みにおいて、企業グループとの意見の乖離があることがわかり、労働・NPO・企業グループの委員間で話し合いを持った。現在、企業グループの合意を得るため、2012年6月26日の総会において承認されたリーフレットを改訂中である。~~
- ・~~勉強会の実施: 第8回会合にて鎌田健司氏 (国立社会保障・人口問題研究所・人口動向研究部研究員) を招いて、「指標の収集と分析手法」に関する勉強会を実施。~~

■~~地球規模の課題解決への参画ワーキンググループフォローアップ会合~~

- ・実施会合：4/19, 6/29, 8/1, 9/19, 10/31, 12/4, 2013/1/15 (計7回)
- ・イベント“作戦会議”の開催：協働戦略において「2013年春に向けた成果」として挙げた、地球規模課題に対する市民の理解と認知度向上を目指した。イベントは、各セクターで共に課題解決を目指すことから“作戦会議”と題し、7つのセクターから参加者を募り、第1回(2012/10/2)は、リオ+20(国連持続可能な開発会議)を題材に、地球規模課題への理解者を増やすために多様なセクターでできることについて、案を出し合った。第2回(2013/2/25)は、第1回にて“消費”の観点から問題意識をもつ必要性が多く挙げられたことから、“消費”を切り口に、地球規模課題を解決するための具体的な提案出しを行った。

#### ■人を育む基盤の整備ワーキンググループフォローアップ会合

- ・実施会合：6/6, 6/21, 12/6, 2013/2/20 (計4回)
- ・協働戦略において検討された「持続可能な人材の育成に係る原則」づくり：有志で作成作業に入った。参加メンバーは、消費者グループ(NACS、全国消費者団体連絡会)、事業者グループ(日本経団連)、NPO/NGOグループ(本ネットワーク)、政府(消費者庁)。本ネットワークからはESD-J(村上さん)とCSOネットワークの黒田が参加。原則づくりのための会合は5回開かれた(2012/12/27, 1/15, 1/27, 2/7, 2/18)。原則は次回総会に提出する予定。協働プロジェクトとして参加している文部科学省主催の「消費者教育フェスタ」は神戸(1/30-31)と東京(2/27-28)で開催。ワーキンググループメンバーはシンポジウムや分科会に登壇。またNPO法人ACEが出展、参加した。

#### ■持続可能な地域づくりワーキンググループフォローアップ会合

- ・実施会合：12/26, 2013/2/20 (計2回)
- ・参加グループ：金融、消費者、労働、NPO/NGO
- ・2011年度に発行したリーフレット「地域円卓会議のススメ」をもとに全国で徐々に地域円卓会議形式の場づくりが進んでいることを共有し、また各グループで取り組まれているマルチステークホルダーの取り組み、および「持続可能な地域づくり」に関する取り組みについて共有した。その結果、地域で円卓会議手法を説明し、啓発事業として実施していくこと、また多様な主体が参画する「持続可能な地域づくり」の各地の事例を集めて共有することの重要性を確認し、今後の種まきのために「これなら自分たちにもできる」という事例を多く紹介していくことを確認し合った。会合の中で共有した事例については記録をまとめ、ワーキンググループメンバー間で共有している。

#### (4)「地域円卓会議フォーラム2014」の開催

社会的責任円卓会議発足から5年を記念し、同円卓会議の持続可能な地域づくりワーキンググループからの提案を端緒として全国に広がりつつある「地域円卓会議」を各地で実施する



組織間の情報交換、ならびにノウハウ供与の場として、「地域円卓会議フォーラム」をNNネット主催の下、2014年2月20日に開催した。同フォーラムには消費者セクター、労働セクターからもご挨拶いただいたほか、各地で地域円卓会議を実践する方、これから実践しようと考えている方、96名（幹事団体含む）に参加いただいた。

（開催概要は啓発チームの報告部分参照。当日の議論の内容はNNネットサイトを参照。）

## 2013年度の組織運営（事務局業務）報告

### 1. 会議等の業務

#### (1) 第6回 通常総会の開催

日 時：2013年5月10日（金）10：00～11：30

会 場：早稲田奉仕園 スカイラウンジ

議 題：

- ・2012年度事業報告・決算の承認
- ・2013年度事業計画・予算の承認
- ・社会的責任に関する円卓会議委員の選出について
- ・その他

#### (2) 幹事会の開催

- |          |                |              |
|----------|----------------|--------------|
| ・第57回幹事会 | 2013年4月16日（火）  | 場所：日本NPOセンター |
| ・第58回幹事会 | 2013年5月21日（火）  | 場所：日本NPOセンター |
| ・第59回幹事会 | 2013年6月18日（火）  | 場所：日本NPOセンター |
| ・第60回幹事会 | 2013年7月16日（火）  | 場所：日本NPOセンター |
| ・第61回幹事会 | 2013年8月20日（火）  | 場所：日本NPOセンター |
| ・第62回幹事会 | 2013年9月17日（火）  | 場所：早稲田奉仕園    |
| ・第63回幹事会 | 2013年10月15日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第64回幹事会 | 2013年11月19日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第65回幹事会 | 2013年12月17日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第66回幹事会 | 2014年1月21日（火）  | 場所：日本NPOセンター |
| ・第67回幹事会 | 2014年2月18日（火）  | 場所：日本NPOセンター |
| ・第68回幹事会 | 2014年3月18日（火）  | 場所：日本NPOセンター |

### 2. 会員に対する業務

#### (1) 会員へのフォローアップ

- ・会員の入会、継続、休会等に伴う業務を行った。
- ・会員メーリングリストの運営と管理を行った。
- ・会員に対して、幹事会議事概要および次回幹事会日程などを、メーリングリストを通じて配信した。

#### (2) 会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理を行った。

### 3. 経理等の業務

#### (1) 日常的な会計

- ・円滑な業務執行を行うために、現金等の動きについて記録し、資金の動きを明確にした。

#### (2) 資金管理と検査

- ・現預金などの日常の管理状況を検査する業務を行った。
- ・より本ネットワークの資金状況を把握するために、決算の様式を変更した。

### 4. 総務関連の業務

#### (1) ウェブサイト管理・運営に関する業務

- ・新サイトの管理・運営を行った。

#### (2) 什器備品等の管理

- ・什器備品の発注や管理等についての業務を行った。

### 5. その他

- ・インターンの業務内容、受け入れ体制など、事務局業務のサポートについては次年度の検討事項とした。
- ・日本 NPO センターが事務局を担った。

以上